備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成２４年度～	根拠法令・例規等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
総合計画 大項目 基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）	環境課
中項目 基本施策	01 生活しやすいまちづくり	職・氏名	衛生係長・柴垣桂介
小項目 施策	14 ごみ処理	電話	64-1821
事務事業名	06 ごみ処理施設整備事業	このシート作成に要した時間	1.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	一般廃棄物の処理を必要とする市民・市内事業者
目的（何のために）	備前市内で発生する一般廃棄物を、適正かつ効率的に処理する事により、生活環境の保全につなげる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	ごみ分別区分の統一やごみ処理施設の集約等を図り、公平な行政サービスの確保とごみ処理の効率化に努める。

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
ごみ処理施設整備基金積立事業	クリーンセンター備前の更新施設整備費の準備金として基金の積立を行う。	◎

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
事業費	直接事業費	千円			10,000
	必要人員 人件費				0.00人 0
	事業費計		0	0	10,000
決算額 財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源				10,000
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	説明			
結果指標量				
対前年比	%	－		
活動コスト	円			
単位当たりコスト		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
	目標値（A）				
	実績値（B）				到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

成果指標設定の考え方・式や説明

新たな施設の整備を進める事業のため、成果指標の設定ができない。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である

必要性

- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い ～ E 低い）：**A**

効率性の評価

コスト

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい

手段

- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高いや ～ E 低いや）：**C**

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ■ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高いや ～ E 低いや）：**A**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○	○					

説明：和気北部衛生施設組合が平成25年度で解散することに伴い、平成26年度からは日生・吉永分のごみも合わせてクリーンセンター備前で焼却することとなる。処理能力の維持もさることながら、使用期限があるため早急に更新施設の準備を進める必要がある。

総合評価

現施設では、平成26年度からの焼却量増に向けて、能力向上の整備が必要となるが、併せて新たに施設を整備する準備も進めなければならない。現施設の地元との調整と、新たに用地を確保するための地元調整が最優先となる。混乱を招かないよう、関係機関とも十分な調整を図り、慎重に進めていく必要がある。

総合評価（A 高いや ～ E 低いや）：**B**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○	○					

取組目標：積立事業は継続的に行う。
用地の確保ができ次第、基本計画、測量・地質調査、生活環境影響調査など、次の準備に取り組む。